

令和6年度 信濃教育会 全県研究大会 長野市立川田小学校会場 開催通知

1 期 日 令和6年11月22日(金)

2 会 場 長野市立川田小学校

3 日 程

12:50 13:15 13:30 13:40 14:40 15:40 16:25 16:40

(1) 受付	(3) 開会行事	授業会場へ	(4) 公開授業	(5) 座談会	(6) ワークショップ	(7) 閉会行事
(2) 来賓到着	【多目的ホール】	移動	【体育館】	【多目的ホール】	【多目的ホール】	【多目的ホール】

(1) 受付 12:50～13:10

(2) 主催者・講師来賓到着 12:50～13:10 【校長室】

講師 信州大学准教授 佐藤 和紀 先生

信濃教育会事務局次長 原 文章 様

信濃教育会総務・会計部長 清水 恒善 様

研究調査委員 下諏訪中学校長 矢島 和明 様

来賓到着 12:50～13:10 【多目的ホール】

川田地区区長会長 西澤 利通 様

コミュニティスクール運営委員長 義家 繁 様

ボランティアコーディネーター 伊藤 昭衛 様

川田地区民生主任児童委員 田牧 恵子 様

(3) 開会行事 13:15～13:30 【多目的ホール】

①はじめの言葉 (教頭 峰田 美隆)

②講師・来賓・主催者紹介 (校長 桂本 久美子)

③主催者挨拶 (次長 原 文章)

④研究の説明 (研究主任・授業者 秋山 佳樹)

⑤諸連絡 (教頭) ⑥おわりの言葉 (教頭)

(4) 授業公開 13:40～14:25 【体育館】

テーマ 子どものレジリエンス(困難を乗り越える力)を育成する授業づくり  
—地域教材を題材とした探究的な学習を通して—

授業学級 6年桜学級

授業者 秋山 佳樹 檜本 茂治 様・橋本 淳 様(アドバイザー地域講師)

総合的な学習の時間 単元名「旧信濃川田駅を残していくために私たちがができること」

(5) 座談会 14:40～15:30 【多目的ホール】

「子ども自らが、心ゆくまで探究する授業づくりのために～授業を通して考えてみよう～」

(6) ワークショップ 15:40～16:20 【多目的ホール】

講師 信州大学准教授 佐藤和紀 先生

「これからの探究的な学びとは?～授業実践を通して～」

(7) 閉会行事 16:25～16:40【多目的ホール】

①はじめの言葉 (教頭 峰田 美隆)

②会場校校長挨拶(校長 桂本 久美子)

③諸連絡 (教頭)

④終わりの言葉 (教頭)

4 その他

(1) 駐車場は来賓の皆様は来賓駐車場、一般参加者の皆様は校庭をご利用ください。受付の時間が児童の下校時間と重なりますので、運転にはご配慮ください。

(2) 長野市の先生方は貴校の教師用タブレットをご持参ください。長野市外の先生方は本校のタブレットを使っていただくため、Google アカウントをご持参ください。

(3) 上履きをご持参ください。一般参加者の皆様は校庭駐車場から体育館にお越しいただき、体育館前のブルーシートで上履きへの履き替えをお願いします。

(4) 参観後、Google フォームでのアンケートにご協力ください。

# 私と子どものあゆみ

長野市立川田小学校 秋山佳樹

## 1 個人研究テーマ

子どものレジリエンス（困難を乗り越える力）を育成する授業づくり  
-地域教材を題材とした探究的な学習を通して-

## 2 研究テーマ設定の理由

研究テーマ設定の経緯を（１）～（５）の項目に分けて説明する。

（１）子どもたちの様子と信教全県研究テーマ「子ども自らが、心ゆくまで探究する」から

今の川田小学校6年生（32名）を5年の4月から担任として授業や休み時間などを共に過ごしてきた。5年生のおわりまで以下のような実態あった。

授業や生活全般で課題や乗り越えるべき壁に当たった時に、子ども同士で助け合おうという気持ちをもっていたり、行動に移したりできる子どもが多い。しかし、問題が自分事になっていない子どもたちは「困った時も黙っていれば誰かが助けてくれるだろう」「自分以外の誰かが話し合って解決するだろう」という受け身の考えをもっている様子が窺われた。

以上のことから、子どもたちが

- ・乗り越えるべき壁に直面した時に、自分の力で … 子ども自ら
  - ・それを乗り越える方法を模索しようとする人材 … 心ゆくまで探究する姿
- になってほしいと思い、「困難を乗り越える力」を育成するような授業をしていきたいと考えた。

（２）困難を乗り越える力

「困難を乗り越える力」は非認知能力の一つであると考え、文献や書籍を調べると様々な研究や定義があり、代表的な定義として以下のようなものがあつた。

① 「社会的ディスアドバンテージや、己に不利な状況において、そういった状況に自身のライフスタイルを対応させる個人の能力」

(American Psychological Association, (2014), The Road to Resilienc)

② 「困難な状況に曝されることで一時的に心理的不健康な状態に陥っても、それを乗り越え、精神的病理を示さず、よく適応している状態」

小塩真司・中谷素之・金子一史・長峰信治 2002 ネガティブな出来事からの立ち直りを導く心理的特性-精神的回復力尺度の作成- カウンセリング研究 35、57-65.

これらの能力は「レジリエンス」と呼ばれ、私が考える「困難を乗り越える力」に近いと考え、レジリエンスを育成するための支援について検討を進めた。



（３）レジリエンスをどのように育成するか

レジリエンスの育成を導く要因には以下の三要素がある。

新奇性追求	感情調整	肯定的な未来志向
明確な目標や夢を持ち、具体的な見通しに基づく将来的なプランを思い描くこと	情動反応をモニタリングし、評価し、修正する感情の自己調節をすること	新たな物事・人などに興味を持つことや、常識や習慣にとらわれず前向きにチャレンジする姿勢や行動をすること

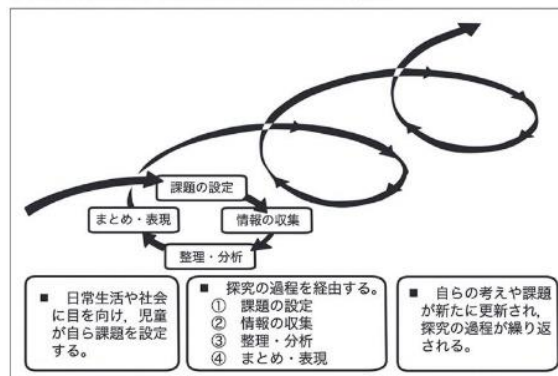
引用：小塩真司・中谷素之・金子一史・長峰信治 2002 ネガティブな出来事からの立ち直りを導く心理的特性-精神的回復力尺度の作成- カウンセリング研究 35、57-65.

これらの三つ要素から、明確な目標や課題をもち、見通しをもって取り組み、失敗してもその経験を生かして「チャレンジし続けられるような授業」をしていきたいと考えた。

(4) 佐藤和紀先生との対話から 「生涯に渡って学び続けられる学習者」

「チャレンジし続けられる授業」を考えた時に、ICT教育や教育工学を専門的に研究されている信州大学の佐藤和紀先生と共同研究をしたいと思った。これまで学会や研修、公開授業などで講演を聞く機会があり、子どもたちのこれからの時代の「学び方」について語られていた姿が印象に残っていたからである。今年度の4月に、佐藤和紀先生と対話をし、「探究的な学習」を様々な教科の学習で取り入れて子どもたちが「学び方を学び」、「生涯に渡って学び続けられる学習者」にしていくことでレジリエンスの育成につながるのではないかと考えるに至った。

学習指導要領解説 総合的な学習の時間編より抜粋



(5) 教科と題材の選定 地域教材 総合的な学習の時間

探究的な学習に意欲的に取り組めるようにまず、日常生活や社会に目を向け、課題設定をする必要がある。そのために、本研究では、地域教材を題材とすることにした。地域の具体的な素材や課題をもとに学習することで、積極的に問題解決的な活動に向かうような意欲を引き出せると考えた。そして、地域教材を総合的な学習の時間で扱うことにした。

以上の(1)～(5)から、本研究のテーマを設定した。

### 3 研究全体流れ

<p>1 学期</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・探究的な学習を社会の授業に取り入れて行った。</li> <li>・佐藤和紀先生と佐藤研究室の学生さんに三回来ていただき、私の支援や子どもの学習の様子について、授業のフィードバックをいただき、授業づくりや授業中の指示発問を中心に授業改善を重ねてきた。</li> <li>・子どもの題材との出会い</li> <li>・子どものレジリエンスを測定する一要素にするために、レジリエンスに関するアンケート調査を6月と7月に行った。</li> </ul> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-top: 10px;"> <ul style="list-style-type: none"> <li>・「困ったことがあっても何事もよい方向に考える」や「失敗してもあきらめずにもう一度挑戦する」といった質問19項目のアンケートである</li> <li>・1「そう思わない」～5「とてもそう思う」の、5件法で質問し、1～5点に点数化し6月と7月の変化を測定した。</li> </ul> </div> <p style="font-size: small; margin-top: 5px;">田中 文夫、平岡 恭一、吉中 淳(2012)「小学生のレジリエンスに関する研究：尺度の作成と信頼性・妥当性及びレジリエンスの機能の検討」、日本教育心理学会総会発表論文集、第54回総会発表論文集、p.591.</p>
<p>2 学期</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・算数で探究的な学習を積み重ねる。</li> <li>・社会で身に着けた探究的な学習の学び方を生かして、総合的な学習の時間に取り組む。</li> <li>・11月下旬レジリエンスの測定し、総合的な学習の時間実施後の学級全体と個人内でのレジリエンスの変化を分析する。</li> </ul>
<p>3 学期</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・2学期の反省を生かして、総合的な学習の時間に取り組む。</li> <li>・2月下旬レジリエンスの測定し、年間を通した学級全体と個人内でのレジリエンスの変化を分析する。</li> </ul>

## 4 私のあゆみ ～佐藤和紀先生との共同研究を通して～

□佐藤和紀先生や学生さん方からのフィードバックから得た気付き ⇒これまでの取り組み

### (1) 探究的な学習 実現に向けての土台作り

#### 【心理的安全性を保つための学級づくり】

- 子どもが意見を表出したり、学習に集中したりできるよう子どもの心理的安全性を確保する。  
⇒過ごしやすい教室環境を整えるために、「身の回りの整理をしよう」「ごみを拾う習慣をつけよう。一緒に頑張ろう」を継続して伝える。
- 学習活動で自由交流をした時に、固定的な人間関係が見られた。  
⇒様々な教科の授業で意図的に組んだグループ活動を行ったり、学活や帯活動で構成的グループエンカウンターに取り組んできたり努めてきた。

#### 【日頃から見方・考え方を働かせる授業を行う】

- 4月に行った社会の授業「縄文のむらから古墳のくにへ」において、社会的事象の見方・考え方を働かせながら教科書を読んで考えていく事柄として、「弥生から始まった中国や朝鮮との交流の第一歩が、今後の日本文化や国作りに大きな影響を与えること」があった。しかし、これを子どもに意識させないまま進んでしまっていた。  
⇒学習の流れを説明する「学習の手引き」で、その教科の働かせる「見方・考え方」や重要な「キーワード」を子どもと共有する。評価の中に、子どもが「見方・考え方」を働かせて活動に取り組めるような観点を入れていく。

#### 【協働的な学びと個別最適な学びの実現】

- 教師が単元や一時間を通して子どもたちにどのような姿になってほしいかを明確に伝える。  
⇒ゴールイメージや評価規準をループリックにし共有する。
- 学習問題の中に協働できるような仕掛けが必要。  
⇒異なる考えをもつ子ども同士、助け合える子ども同士をつなげていくような指示をする。  
⇒課題を選択できるようにし、異なる選択をした子ども同士で説明し合うといった活動を入れた。
- 学習過程の可視化が必要。  
⇒Google スプレッドシートによる学習状況の明確化にして、自分や友だちがどの段階にいるかを把握できるようにする。
- 時間的ゆとりが必要。  
⇒2～3時間の自由進度型にするなどして子どもがゆとりをもって活動に臨めるようにした。

#### 【言語活動、ふりかえりの重要性】

- 学び方をふりかえることが必要。  
⇒「まとめ・表現」の説明文や「ふりかえり」をするときの文書の型を示した。  
⇒手本となる子どもの記述を全体で紹介してきた。



## (2) 探究的な学習を実現させるための具体的な支援

### 【学習の手引きの明確化】

- 子どもが読んで授業の全体像や何をすべきかがはっきりとわかる「学習の手引き」が必要である。
- ⇒課題の設定や評価規準、学習の方法を明確化し、子どもが学習できる「学習の手引き」を作る。

### 【「情報の収集」の効率化】

- 教科書の文章をそのまま書き抜いている子どもがいたため、見方・考え方を働かせながら効率的に「情報の収集」ができるように促していく必要がある。
- ⇒教科書の同定、キーワードに印をつけることで、効率的に情報収集できるようにした。さらに、深めていくために、文章と図がつながるところに線を引き、理解するよう促してきた。



### 【「整理・分析」の可視化】

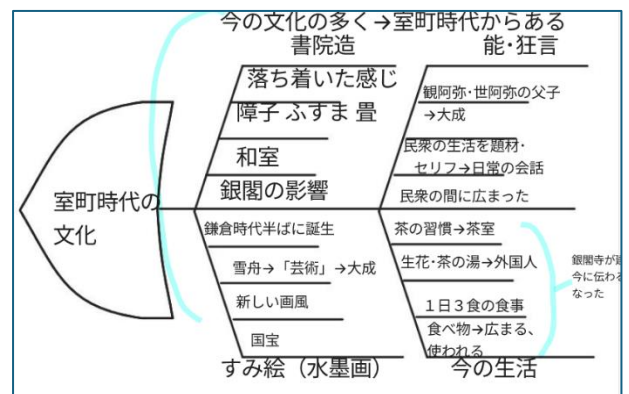
- 子どもたちが友だちの作業過程を確認しながら、進められる環境にする。
- ⇒jam ボードを使っての整理・分析ができるようになってきた。線を引いたり、色で囲ったりして分類分けする子どもが増えてきた。
- ⇒現在は jam ボードがサービス終了したので、Fig jam の活用をしている。

### 【「まとめ・表現」の質を高める】

- 質を高めるために、子ども同士で言語活動を行うことの必要がある。
- ⇒授業の終盤で、子ども同士で説明し合う活動を設定する。
- 情報を整理したのに、まとめの文章が教科書を写すだけというような状況が多く見られた。
- ⇒まとめに生かせる思考ツール（フィッシュボーンやクラゲチャート）を使った「整理・分析」の方法を教える。



思考ツール「フィッシュボーン」



## 4 子どもたちのあゆみ ～1学期社会～

1学期では社会で探究的な学習を行った。その中でレジリエンスを調べるアンケートの数値が上昇した（五件法の合計得点66点⇒83点）児童の様子を紹介する。

### <レジリエンス尺度の数値が特に上昇したN・Mさん>

社会「日本国憲法」の学習 1時間目のふりかえり

①今日分かったことは、基本的人権の尊重とは、国民だれもが人間らしく生きる権利をもつことで「基本的人権」は一人ひとりが生まれながらもっている全ての人が自分らしく生きられるよう年齢や性別障害のあるなしに関わらず健康で文化的な暮らしを送ることができる もう一つが平和主義ということがわかった。基本的人権の尊重とは、例として、国民の権利を保障しています、なので日本国憲法には国民が果たさなければならない義務も定められています。つまり、私たちは、日本国憲法の定める権利を正しく行使するとともに、お互いの権利を尊重する態度を身につけるように、努力しないといけないということがわかった。国民として義務を果たしていく必要があることがわかった。これらは、私たちが協力しながら望ましい社会をつくり上げていく上で、欠かせないことということがわかった。② N・H のジャムボードを見て、自分とは違う考えのことをまとめてあった。

「N・H のジャムボードを見て、自分とは違う考えのことをまとめてあった。」という記述から、まとめ方を参照していることがわかる。

社会「日本国憲法」の学習 2時間目のふりかえり

④今でも、世界では、ウクライナをはじめ、戦争が起きて、多くの人々が死んでしまっていることがとても悲しく思った。平和主義を世界に広めて、戦争をしない国々をつくるように進められていることがわかった。昔は原子爆弾が落ちて、多くの人に被害が起こったことがわかった。なにか、自然災害が起きた時のために、自衛隊という団体があることがわかった。戦争の悲惨さや平和の尊さを伝えるために、小学校などでたいけんをかたりつぐ「語り部活動」を行っていることがわかった。また、地域センターなどで、映画上映やパネル展などを行い、市民が平和を願って式典などのイベントもしていることがわかりました。戦争がなく過ごせる日本はとてもいいことなんだなあと思いました。尼崎市では、70年前に市内では、戦争の様子を今には伝え残されていることがわかった。平和主義とは世界では今でも戦争をしていて、苦しんでいる人がたくさんいます。日本以外の人も日本の人も、世界の人が、国々と協力して、平和な社会を築くことが求められていることがわかった。東京都江東区では、平和を祈る式典を開いていることがわかった。平和信賴して、平和主義の宣言をしてうたことがわかった。原子爆弾はかつては、日本の広島と長崎に原爆を落とされ、多くの犠牲者や死者がでた。日本はただ一つの被爆国として、核兵器を「持たない、作らない、持ち込まない、」という非核三原則を掲げ、核兵器を無くすことを訴え続けています。自分たちが住んでいる長野県長野市若穂川田の旧信濃川田駅にも爆弾の吸収が来たと言われているし、長野市立川田小学校の体育館にも原子爆弾の空襲が落とされたことも分かった。今にも、証拠はないが、爆弾の跡があるものは残されていたことがわかった。

次の時間、憲法の2時間目には文字数が増え、地域題材である「旧信濃川田駅」の話も交えながら自分の考えをふりかえっている。

レジリエンスのアンケートの数値が上昇したN・Mさん。スプレッドシートでお互いの考えを見ることが出来るようになり、友だちの考えを参考にしながら進めていた。そのことで、目標が明確（新奇性追求）になり、次のチャレンジにつながったと考えられる。



## 5 子どもたちの歩み ～2学期 総合的な学習の時間～

(別途資料参照 後ろについています)

### 6 本時の授業構想

#### (1) 単元名

「旧信濃川田駅を残していくために  
私たちができること」

#### (2) 単元設定の背景

この単元では、子どもたちが生活する地域にある旧信濃川田駅をテーマにして、その存続に関わる地域の方々の思いや取り組みに触れていく。旧信濃川田駅は、かつて交通手段として重要な役割を果たしていたが、廃線となった今でも地域の人々の強い思いにより維持・管理されている。

具体的には、地域の方々の強い思いや旧信濃川田駅の歴史を理解し、駅の存続に向けて、自分たちができることを見つけて取り組む。また、子どもたちが自発的に企画し行動することで、実行力や協調性、解決策を見つけるための課題解決能力を働かせる活動を設定できると考える。

この活動を通じて子どもたちは地域社会の一員としての責任や役割を自覚し、困難を乗り越える力の大切さを学んでいけると考える。さらに、学習活動を未来に向けた持続可能な地域づくりの一環として位置づけ、子どもたちが学習活動を通して学んだことを今後の自らの生活や行動に生かすことで、将来的に地域や社会の一員として活躍できる力を培ってほしいと願っている。



#### (3) 単元の目標

旧信濃川田駅の存続について考えていく活動を通して、家族や地域の方々の思いや地域にある組織の取り組みについて理解し、旧信濃川田駅を残していくためにどのようなことができるかを考え実行する活動を行うとともに、自らの生活や行動に生かすことができるようにする。

#### (4) 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
<p>①地域の方々にとって旧信濃川田駅は思い出の建物であること、戦争の跡があることなど、歴史的な価値があることを理解している。</p> <p>②家族や地域の方へのインタビューを、相手や場面に応じて適切に実施している。</p> <p>③廃線となった旧信濃川田駅が今日まで存続しているのは地域の方々による管理のおかげである、そこには強い思いがあることに気付いている。</p>	<p>①課題の解決に向けて、何をするのか、何のためにするのかを意識し、解決の見通しをもって計画を立てている。</p> <p>②必要とする情報に応じて、調べる方法を選んだり、インタビューにおいて相手や質問の内容や方法を決めたりすることができている。(情報活用能力)</p> <p>③ふりかえりを通して、自己の変容や次につながるような課題を見出し表現できている。</p>	<p>①友だちと役割分担したり、自他の考えの良さを生かしたりしながら問題の解決に向けて取り組もうとしている。</p> <p>②実施するイベントについて「実現可能か」「意味があるのか」「有効か」等の視点をもってねらいを持った活動を見出そうとしている。</p> <p>③課題に対し、自分の考えや友だちとの関わりから、失敗を生かしながら粘り強く解決しようとしている。</p>



(5) 単元構想

1・2	2・3	4	5～7	9
旧信濃川田駅へ行き、見つけた疑問をjamボードに整理しよう。	見つけた疑問の答えをインターネットで情報収集して、整理・分析しよう。	自学自習で調べた人のノートを読んで情報収集しよう。	橋本淳さん檜本茂治さんと、旧信濃川田駅の廃線までの映像を鑑賞し質問しよう。	上映会を通してわかったこと・感じたことをまとめよう。 (フィッシュボーン)
10～12	13～16	17	18	19 (本時)
川田駅の存続のために、できることを考えグループ活動を開始しよう。	11月12日の川田駅イベントに向けてグループ活動を進めよう。	<11月12日> 第一回 川田駅イベント 「思い出に残そう旧信濃川田駅」	川田駅イベントのふりかえりをしよう。他のグループに意見やアドバイスをしよう。	他のグループや地域の方からのふりかえりをもとに、「次は何ができるか」「改善すべきところは何か」をグループで話し合い今後の計画を立て準備をしよう。
20～23	24	25	26	
川田駅の存続のために、できることを考えグループ活動しよう。	<3学期> 第二回 川田駅イベント (仮名)	<2月参観日> おうちの人に向けて川田駅のことや、これまでの活動を発表しよう。	単元の目標に沿った内容で子どもたちからやりたいことが挙げれば、時間を設定し支援を続けていく。	

(6) 本時の流れ

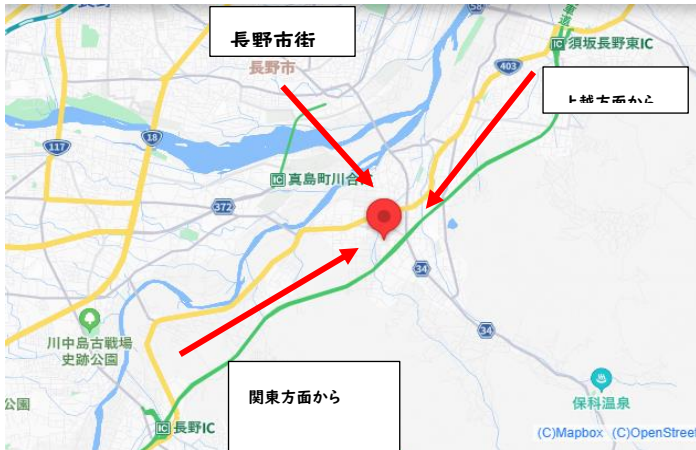
- ①【情報収集】 他のグループ、地域の方からの意見やアドバイスを見る。
- ②【整理・分析】 情報収集したものを班で、Fig jam にキーワードを書き上げ関連付けられるものに分けたり、カテゴリー分けたりして、これからグループ活動で行っていくべきことを見出す。
- ③【まとめ・表現】 第一回のイベントの成果と課題をまとめる。⇒発表する。
- ④【課題の設定】 次への改善案を立てる。
- ⑤【ふりかえり】 スプレッドシートに入力する。

(7) 本時のルーブリック評価 ( ) 内…支援

A	Bに加え、異なるグループとの発表を通して、「成果と課題」をさらに修正している。
B	第一回のイベントについて友だちや地域の方からのアドバイスを整理し、「成果と課題」をまとめ、異なるグループの人と発表している。
C	Bに満たないもの(教室に入って活動できない子どもには、別室でグループ活動を行ったり、オンライン学習でチャットのやりとりを行ったりして、参加できるようにする。)

# 長野市立川田小学校までの道路案内図

遠方からお越しの皆様・・・



上越方面からは須坂長野東 IC を下り、国道 403 号を南下してください。

関東方面・中信・南信・東信からは長野 IC を下り、国道 403 号を北上してください。

長野市街地からは、落合橋か関崎橋を渡ってください。

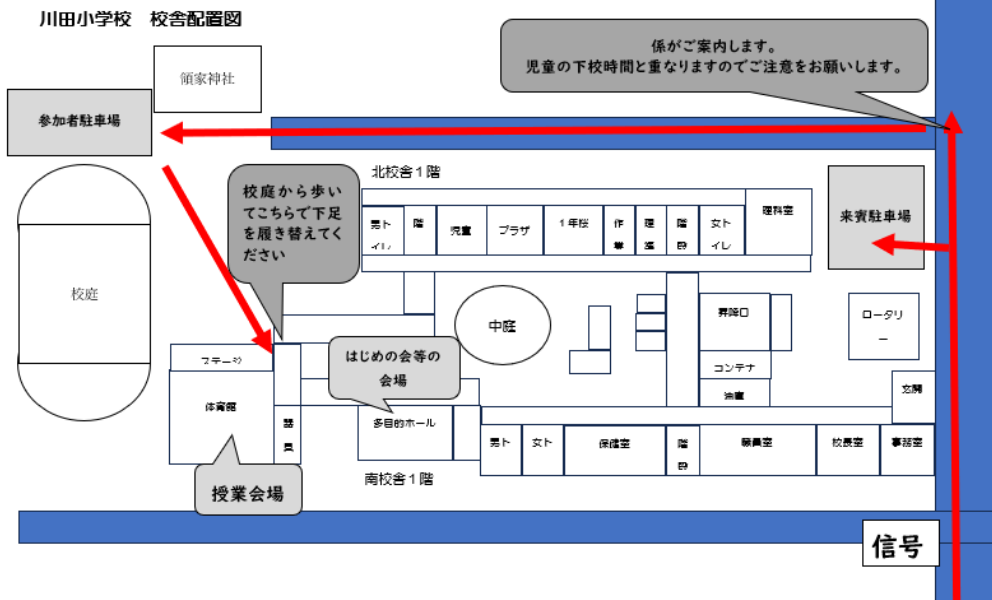
## 川田小学校周辺図



「領家」の信号機(セブンイレブンが目印)を県道34号線菅平方面に400m程直進します。

高速道路の下をくぐったらすぐに右折して、200m程側道を直進して「止まれ」の標識を右折してください。高速道路の下をくぐり、200m程直進して信号機に出ますと川田小学校が右角にあります。

## 川田小学校駐車場



参加者の皆様は校庭駐車場へ。来賓の皆様は北校舎周辺の駐車場へ駐車をお願いします。